

1 観光振興ビジョン策定の目的等

- (1) **策定目的** 本地域の観光の「めざす姿」を地域で共有するとともに、その実現に向けて多様な主体が連携し、ともに取り組みを進めて行くため観光ビジョンを策定する。
- (2) **位置づけ** 福島県の最上位計画である「福島県総合計画」の「地域別の主要施策」の個別計画として位置づける。
- (3) **計画期間** 令和5年度(2023年度)から令和12年度(2030年度)までの8年間

2 本地域の観光の状況

(1) 観光客入込数等の状況

- 観光客入込数は、H25年（3,271千人）をピークに8年連続で減少。R4年は2,074千人となり、新型コロナウイルス拡大前（R元年）の約76%となった。
- 延べ宿泊者数は、H27年(207千人）をピークに減少傾向。R4年は117千人となり、新型コロナウイルス拡大前（R元年）の約85%となった。

(2) その他の観光状況（R4年度）

- 旅行満足度は70.9%（方部別上位3番目）。観光地等認知度は20.0%（方部別上位5番目）にとどまる。
- 本地域を観光先として選んだ理由としては、「自然景観・紅葉を楽しむため」「温泉を楽しむため」「観光名所を楽しむため」の順に上位。

3 SWOT分析による本地域観光の「強み」と「弱み」

	内部要因	
	強み（Strengths）	弱み（Weaknesses）
	<ul style="list-style-type: none">・豊富な自然環境・日本遺産や歴史的景観保存・郷土料理や伝統文化等、歴史的資源・農林業を中心とした特産品・自然等を活用したアクティビティ・JR只見線の全線運転再開・浅草駅から会津田島駅に直結する東武鉄道等・教育旅行のワンストップ窓口・地域に根付くおもてなし、心づかい	<ul style="list-style-type: none">・旅行ニーズ等把握のためのデータ収集、分析が不十分・地域資源の活用や連携が不十分・国内外への情報発信が弱く、観光地としての認知度が低い・施設の老朽化、脆弱な二次交通など、受入環境整備が不十分・観光関連産業等の担い手不足など、受入体制が不十分
	機会（Opportunities）	脅威（Threats）
	<ul style="list-style-type: none">・情報通信技術（ICT）の進展・旅行目的、旅行ニーズの多様化、新たなツーリズムの展開・旅行形態の変化（個人旅行の増加）・新型コロナウイルスの5類移行に伴う国内旅行需要、外国人旅行者の増加・道路整備に伴う、広域的な連携・交流・地方移住、田舎暮らしへの関心の高まり	<ul style="list-style-type: none">・人口減少等による国内旅行市場の縮小・人口減少等による観光担い手の更なる減少・新型コロナウイルスなどの社会変化による旅行の制約・意欲の減退・自然災害等の発生の可能性・無秩序な開発等による自然景観の阻害や破壊

4 本地域観光の課題

現状、SWOT分析等により課題を整理。

《課題1》多様化する旅行ニーズ等の把握 《課題4》情報発信の強化

《課題2》地域住民による観光振興 《課題5》受入体制の整備

《課題3》地域資源の掘り起こし及び磨き上げ

5 めざす姿

旅先として選ばれる、南会津
～旅行・観光による持続可能な地域の形成～

- 強みとなる観光資源を活用するとともに、地域資源を掘り起こし・磨き上げを進めるほか、旅行コンテンツをテーマやストーリーに沿って掛け合わせ、本地域の魅力を体験できる「南会津旅」を創造。
⇒ 旅行者の増加、滞在時間の延長、旅行消費額の増加
- 地域住民が旅行者との交流を通して、地域の魅力や価値を再認識し、地域への誇りや愛着を醸成

旅行・観光による地域への好循環を創出
多様な主体が「稼ぐ」ことができる持続可能な地域の形成

7 取組の柱、取組方針及び主な取組例

本ビジョンのめざす姿の実現に向けて、3つの柱、10の方針により取組を推進する。

取組の柱	取組方針	主な取組例
柱1 誘客のための土台づくり	1-1 客観的なデータ等に基づく旅行ニーズ等の把握	・観光客動向調査の実施と利活用の推進 ・オープンデータを活用した分析と把握 等
	1-2 旅行者ターゲットの明確化	・観光動向調査等を活用した誘客ターゲットの選定等
柱2 地域資源を活用した魅力づくり	2-1 住民一人ひとりによる観光振興の意識醸成	・地域を周遊するイベント等の実施 ・外部からみた地域資源の魅力の把握 等
	2-2 地域資源の磨き上げ	・旅行者目線での地域資源の掘り起こしと磨き上げによる旅行コンテンツの造成 等
	2-3 テーマ・ストーリー性のあるコンテンツの造成	・「伝統×食×農×自然」など様々な資源を掛け合わせた地域固有のコンテンツの造成 等
	2-4 広域観光の促進	・他地域や近隣県等と連携した広域周遊ルートの形成 等
	2-5 教育旅行等の誘致促進	・教育旅行のニーズを捉えた体験テーマ等の拡充（SDGs、探究活動等） 等
	2-6 誘客促進に向けた情報発信の強化	・県内外の観光イベントを活用した情報発信 ・ターゲットに応じた情報発信手法の選択 等
柱3 多様な旅行者の受入環境づくり	3-1 旅行者の受入環境整備	・ユニバーサルデザインの視点による受入環境の整備、充実 等
	3-2 外国人旅行者の受入環境整備	・外国人旅行者のニーズ把握とコンテンツ造成 ・わかりやすい標識やサインの整備 等

8 本ビジョンの推進

- 地域住民・事業者・行政・観光関連団体など、多様な主体がそれぞれの役割を担い、連携・協働しながら取組を進める。
- 目標値の進行管理及び各主体によるPDCAマネジメントサイクルの継続的な検証により取組の質の向上を図る。

